



学院史編纂室便り

NO. 44 (2016.12.10)
関西学院大学 学院史編纂室

★小野浜外国人墓地に関する新資料発見

昨年秋、『小野浜外国人墓地図』(作成年、作成者不詳)が発見されたと、神戸外国人居留地研究会理事の谷口良平さんより情報が寄せられました。同氏によると、墓地の生成過程、物故者間の関係を探る手がかりとなる貴重な資料で、現在解析作業を進めておられるそうです。

約 660 人が埋葬されたこの墓地は神戸の旧生田川(現:フラワーロード)の川尻にありました。関西学院を創立した W. R. ランバスの父 J. W. ランバスもここに埋葬されました【写真右】。1899 年、この墓地に空きがなくなり、新たに春日野墓地がつくられました。その後、両墓地は修法が原に移転し、神戸市立外国人墓地となり、現在に至っています(小野浜墓地は 1952 年、春日野墓地は 1961 年に改葬)。



★アリシア・アンダーウッドさん(ニュートン院長ご来孫)の来日

J. C. C. ニュートン第 3 代院長のご来孫アリシア・アンダーウッドさん(ニュートンの娘ルースの息子の息子の息子の娘、17 歳)が 6 月 26 日に初来日され、7 月 2 日まで日本滞在を楽しまれました。6 月 28 日には関西学院を訪問し、関係者と交流されました。詳細は最終頁をご覧ください。

★エモリー大学 C. A. クラウリー准教授の来訪

広報誌「K. G. TODAY」に連載中の「学院探訪」は日本語も英語もインターネットで公開されています(吉岡記念館のウェブページ)が、2015 年 10 月に発表した「ヘーデンの日記」をお読みになったエモリー大学(アメリカジョージア州アトランタ)の C. A. クラウリー准教授【左】が当室に連絡して来られました。というのは、この日記は同大学図書館が所蔵しているからです。以来、同准教授と当室の間で情報交換が始まりました。同大学がヘーデン日記の他、アレン文書等、関西学院に関係する貴重な資料を所蔵していることは知られていましたが、関西学院に関わる古い写真も所蔵されていることがわかりました。



8 月 12 日、クラウリー准教授は来日中の貴重な 1 日を割いて、関西学院を訪問されました。

★マッケンジー・クラグストン特別任期制教授による公開授業「日本と私」

9 月に関西学院大学特別任期制教授として着任されたマッケンジー・クラグストンさん(前駐日カナダ大使)が、10 月 11 日の「カナダ研究入門」特別公開授業「日本と私」(モデレーター:水戸孝道教授)で教壇に立たれ、祖父母からご自身まで 3 代にわたる日本との深い関わりについてお話しになりました(祖父母がカナダ長老教会宣教師として来日したこと、長老教会が関西学院の経営に参画していたメソヂスト教会他と 1925 年に合同してカナダ合同教会となったため、日本育ちの母親は関西学院のベーツ家、ウッズウォース家、アウトブリンチ家と親しくしていたこと、父親が神学部教授を務めていたため、上ヶ原キャンパスで育ったこと等)。



★サラ・ペパル判事の来訪

法学部客員教授として何度かお迎えしたアルマン・デメストラルさん(C. J. L. ベーツ第 4 代院長ご令孫)の奥様の妹サラ・ペパルさん(カナダ・オンタリオ州控訴裁判所判事)【右から 4 人目】が、11 月 2 日、お嬢様ジリアンさんと共に西宮上ヶ原キャンパスを訪問され、ルース・グルーバル前院長ご夫妻、舟木讓学院史編纂室長等と懇談されました。キャンパスをご案内した際、ベーツ院長が使われていた旧院長室のほか、法科大学院の模擬法廷に関心を示されたサラさんは、日本の司法制度に関する疑問を抑えきれず、司法研究科長室を直撃されました。突然にもかかわらず、池田直



樹教授【同 2 人目】が英語で見事に解決していただきました。さらに、会議中だった永田秀樹研究科長【同 3 人目】等教授陣の歓迎を受けました。